

1 計画策定の背景

平成30年の文化財保護法の改正により、市町村の作成する文化財保存活用地域計画の認定が制度化された。

令和2年に静岡県が策定した文化財保存活用大綱を勘案し、市民との共創により、多様性に富む本市の文化財を効果的に保存活用するための取組等をまとめた計画を策定したい。

2 文化財の位置づけ

- 文化財は、「市民の財産」であり地域文化のよりどころである。
 - ・ 地域住民のアイデンティティ形成に資するものであり、地域コミュニティの維持・発展に必要。また、観光誘客の地域資源になりうる

3 文化財を取り巻く現状と策定の意義

- ・ 人口減少の進行等による地域コミュニティ存続危機、地域文化衰退
- ・ 所有者の高齢化、経年劣化の進行、未指定文化財の未認知等による文化財の価値・資源喪失の危機
- ・ インバウンド等における地域活性化への文化財の役割増大



行政と市民、団体が地域総がかりで、市民の財産である文化財を活用しつつ、未来に継承していかなくてはならない（=計画の目的）

4 計画の方向性（詳細は別紙資料1参照）

- ・ 所有者や行政、市民等、社会全体の力で文化財の保存活用に取り組む
- ・ 具体的には、「静岡市の歴史文化の特徴」の整理を行った上で、4つの方向性（① 知る、② 守る、③ 活かす、④ 皆で取り組む）に基づき取組を進める。
- 地域総がかりで推進するためには、既存の取組主体の活動のみでは不足である。
 - いまは活動をしていない市民等にも、文化財の魅力を伝え、徐々に文化財の保存活用の主体となってもらうための仕掛けを設ける。

5 文化財の保存活用の方法

（1）指定・登録文化財

- ① 制度に基づき指定や保存修理を継続
- ② 所有者や行政等が可能な範囲で展示等を行い、人々が魅力に触れる機会を提供

（2）未指定文化財（身近にある文化財）

- ① 市民等が自分事として守る意識を醸成
 - 保存方法についてわかりやすく示す
- ② 市民等による情報発信、地域活動グループの形成を促進
 - 取組を促進するガイドブック等を作成する

☆ 「静岡市の歴史文化の特徴」を象徴する文化財

- ① （1）の指定制度等に基づき指定、保存修理の実施を検討
- ② 静岡市観光基本計画（仮称）と連携、本市の魅力を対外的に伝えるため、関連性を持たせて面で活用

6 策定のメリット

- ・ 合併前の市町ごとの独自の方針を、「静岡市の歴史文化の特徴」のもとに一本化した上で、文化財の保存活用ができる。
- ・ 歴史文化の特徴や文化財の価値を示し、市民が身近にある文化財を大切に思う心を醸成するきっかけをつくることことができる。
- ・ 計画に基づき、「知る・守る・活かす・皆で取り組む」ことが、地域コミュニティの維持、発展の一助となるとともに、地域振興、観光誘客につながる。
- ・ 文化財関係国庫補助事業の優遇措置が受けられる。（補助金の優先採択や一部補助事業の補助率加算）

計画案の概要

目指す将来像

静岡市の文化財が活用され、
「市民の財産」として未来に継承される

計画期間

令和7年度～令和12年度（6年間）

計画の概要

- 1章：静岡市の概要
- 2章：静岡市の文化財の概要
- 3章：静岡市の歴史文化の特徴
- 4章：文化財の保存活用に関する将来像・基本的な方向性
- 5章：文化財の保存と活用に関する課題、方針、措置
- 6章：総合的な文化財の保存活用の取組（区域設定）
- 7章：文化財の防災・防犯
- 8章：文化財の保存活用の推進体制

静岡市の歴史文化の特徴

- 1 川がつくりだした静岡・清水平野に広がる豊かな暮らし
安倍川、藁科川、麻機沼、巴川、有東遺跡、登呂遺跡等
- 2 連続と続く政治と文化の中心地
賤機山古墳、国府跡、神部神社浅間神社、駿府城跡、静岡市役所本館等
- 3 街道の往来と人々の交流
東海道、身延街道、久能街道、清見寺・宿場の文化財、小島陣屋跡等
- 4 平野部と丘陵部で育まれた信仰と文化
日本平、三保松原、片山廃寺跡、霊山寺、建徳寺、久能山東照宮等
- 5 オクシズに息づく伝統文化
割田原遺跡、在来作物、焼畑、神楽、盆踊、農具、民具、わさび
- 6 海と共存する歴史文化
三保松原、江尻城跡、次郎長生家、サクラエビ漁、清水灯台等

課題

文化財の毀損・散逸・滅失 / 文化財の活用不足・担い手不足

行政・関係機関(文化財の保存活用に取り組んでいる所有者を含む)

それぞれ取り組む・協働

市民等

これまでの取組を継続・充実させて取り組む。

静岡市の歴史文化の特徴

市民が主体となる取組を促進していく。

[現状]

- 調査の履歴が古く、過去の調査成果を活用できない。
- 調査履歴に最新情報が未反映
- 所在把握が不十分で、毀損・散逸・滅失等が進行
- 「静岡市の歴史文化の特徴」を踏まえた調査未実施

- 保存修理、整備に手つかずの民間所有文化財
- 保存修理のための資金不足
- 保存修理の計画性欠如
- 災害に備えた連絡体制の未構築

- 文化財所在情報等の発信周知不足のため、市民の認知が及ばない
- 文化財の面的・連携した活用の不足

- 制度の形骸化により文化財サポーター制度や登呂博物館ボランティアに登録した人材の活用不十分
- 文化財保護行政を推進する体制が不十分

[方針]

知る（把握・調査）

- 調査履歴の更新
- 実施すべき調査の優先順位付
- 他主体の連携による把握調査の実施

守る（保存・修理）

- 多様な資金調達の方法を民間所有者と共有
- 民間所有者への技術的助言
- 所有者、関係機関等と連絡体制の構築と共有

活かす（活用・情報発信）

- 「歴史文化の特徴」の発信
- 様々なコンテンツ利用による情報発信
- ロケ撮影地としての提供
- 区域を設定して面で活用
- 観光、教育、まちづくり等との連携

皆で取り組む（人材育成・仕組づくり）

- サポーターやボランティアの有効活用
- 学校教育、社会教育の場での活用の推進
- 文化財行政担当者の質向上

[措置]

- 民間で行った調査成果の収集【新規】
- 文化財保護審議会の開催【継続】
- 文化財サポーター等と協働で文化財の把握調査に着手【新規】
- 歴史文化の特徴を踏まえた各種文化財類型調査の実施【新規】

- クラウドファンディング等の利用推奨【継続】
- 保存修理事業の事業化支援と補助金交付【継続】
- 計画的な保存修理事業の実施【継続】
- 未指定を含め保存するための基金の設立検討【新規】
- ハザードマップに照らした文化財情報共有【新規】
- 災害に備えた連絡体制の確立【新規】
- 文化財防火訓練の実施【継続】

- 地域総がかりで保存活用を進めるための先進事例
蒲原地区を文化財保存活区域に設定し支援【新規】
- 名勝日本平保存活用計画の作成【継続】
- 南アルプスエコパークミュージアムとの連携【新規】
- 歴史上の人物の顕彰、発信【新規】
- 未指定文化財のリスト化と公開検討【新規】
- 登録有形文化財旧マッケンジー住宅民間活用【継続】

- サポーター活動機会の提供や活動支援【継続】
- 市民や市民団体との意見交換【継続】
- 大神楽祭の開催【継続】
- 地域学習との連携【継続】
- 行政担当者の専門研修の受講【継続】
- 市民の取組を促進するためのガイドブック等の作成【新規】

※黄色い着色は市民の取組を促進する措置

[措置]

- ステップ 1
身近な文化財に興味を持つ
- 地域の昔ばなしを聞いてみる
 - 文化財説明看板を読んでみる
 - 文化財ガイドの話聞いてみる
 - 友人や親せきを案内する

- ステップ 2
一人で行えることをしてみる
- 身近な歴史文化を調べてみる
 - 散歩ルートに文化財を加える
 - 周りの人に歴史文化を紹介する
 - 文化財を撮影しSNSに投稿する

- ステップ 3
仲間をつくって活動してみる
- 地域の寺社等の清掃に参加する
 - 文化財の価値や魅力を話し合う
 - 文化財のイベントに参加する
 - 地域で文化財のイベントなどを企画する

- ステップ 4
市民同士・団体同士で交流する
- 身近な文化財の異変を、所有者や行政に知らせる
 - 他の活動団体と意見交換を行う
 - 市の方針・措置に賛同し施策に参加する

地域総がかり

[現状]

- 身近にある歴史文化を知らない
- 身近にある文化財が朽ちていく

- 文化財に関わったことがない
- 文化財の担い手になったことがない

- 担い手・継承者不足
- 参加者が少ない
- 文化財サポーター制度や登呂博物館ボランティアの活動が少ない

- 地域で活動する市民団体の活動の行き詰まり
- 団体間での交流がない

現状 方針 措置

将来像

静岡市の文化財が活用され「市民の財産」として未来に継承される